

# 和歌山県における海産稚アユの採捕状況－Ⅱ

## －海域別・時期別の状況－

吉本 洋, 藤井 久之, 見奈美輝彦

和歌山県は全国でも有数の海産稚アユの採捕県であり、海産稚アユの採捕状況における全般的な経緯については報告したので、今回は海域別・時期別について取りまとめた。

### 資 料

和歌山県漁業協同組合連合会資料を用い、1972年から1995年までの24年間における海産稚アユの採捕状況を海域別・時期別に取りまとめた。

### 結 果

**海域別の状況** 始めに、全域の状況についてみることにし、24年間における海産稚アユ採捕量の経年変化を図1に示した。年間採捕量は、1972～1984年は10～35 t 前後の範囲で1～2年おきに増減を繰り返し、

1985～1990年は途中1年を除き2 t 台であり、1991～1995年は7～15 t 前後となっている。なお、24年間の採捕量の平均は14.2 t となっている。

採捕量を10 t 未満から30 t 以上までの4区分とした頻度をみると、24年間では10 t 未満が最も多く、次いで10 t 台となっている(図2)。

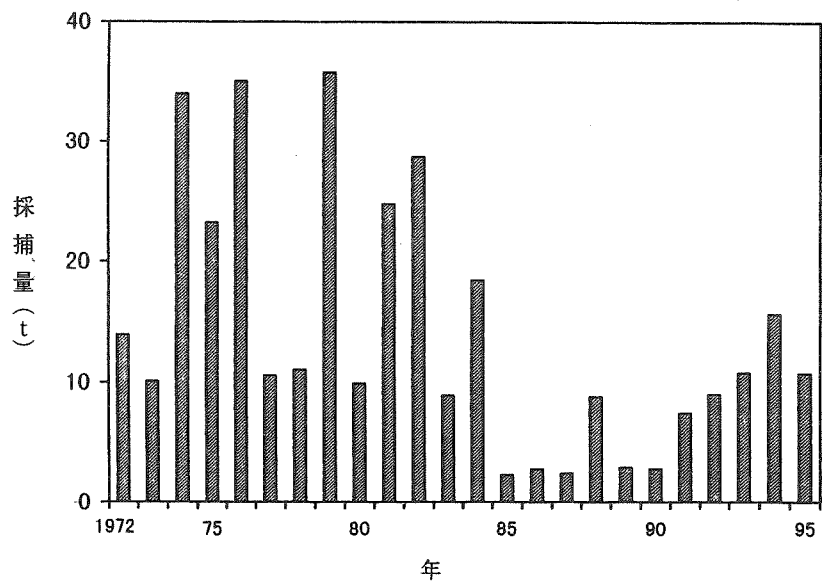


図1 全域における採捕量の経年変化

次に、採捕海域を便宜的に紀北(千田～印南町)、田辺湾(南部町～白浜)および紀南(串本～三輪崎)の3つに分け(図3)、各海域における24年間の採捕量の経年変化を図4に示した。

採捕量は紀北では1972～1984年は3～20 t前後の範囲で増減を繰り返し、1985～1992年は4 t未満、1993年以降は9 t前後となっている。田辺湾では1972～1984年は2～24 t前後の範囲で増減を繰り返し、1985以降は0～7 t前後となっている。紀南は1975年(11 t)を除き全体に3 t以下となっている。平均値をみると、紀北から順に、6.5 t、6.6 t、1.0 tで、紀北と田辺湾はほぼ同じであるが紀南はそれらのほぼ1/6となっている。

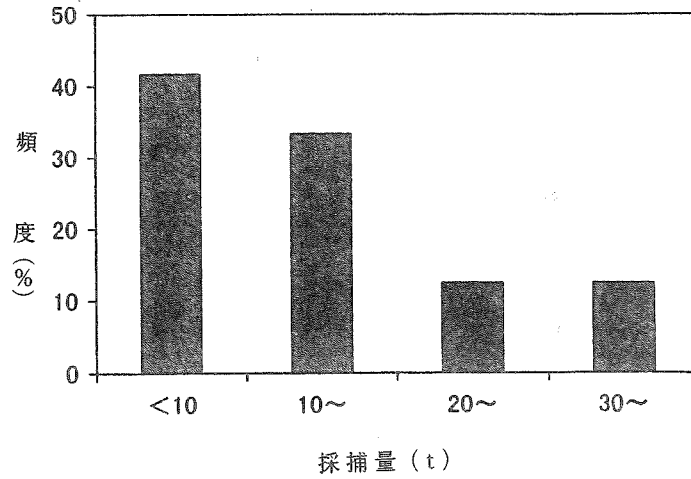


図2 全域における採捕量の頻度

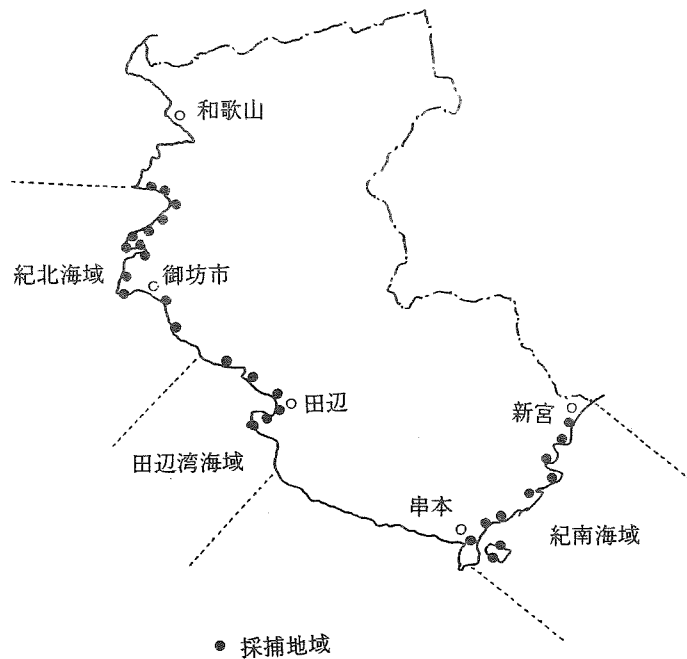


図3 和歌山県における海産稚アユの採捕地域

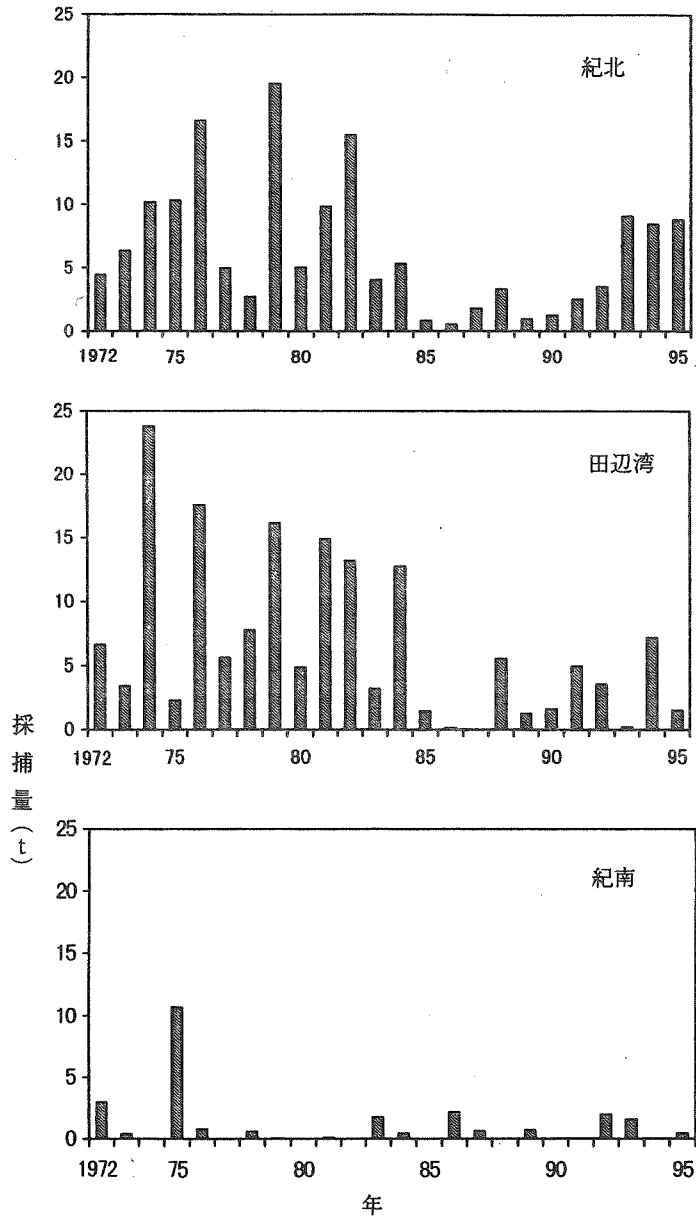


図4 各海域における採捕量の経年変化

採捕量を2 t未満から5 t以上までの3区分とした頻度をみると、紀北と田辺湾では5 t以上が半数前後であり、紀南では2 t未満が著しく多い状況となっている(図5)。頻度の状況は、紀北と田辺湾とは全体的にはほぼ類似しているが、紀南は両者とはかなり様相を異にしている。なお、紀北と田辺湾を年別にみた場合、各採捕量

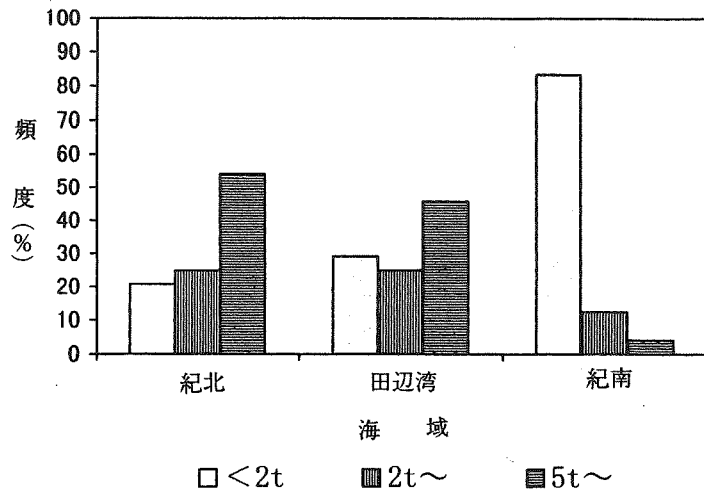


図5 各海域における採捕量の頻度

はほぼ同じ年もあるが逆に相互にかなり相違している年もあり一定とはなっていない。

以上、採捕海域を紀北、田辺湾および紀南の3つに分けて取りまとめたところ、採捕海域は紀北と田辺湾が主体となっている結果が得られた。

**時期別の状況** 採捕の期間は年により異なり、24年間では1月20日から4月27日までの間となっている。そこで、1～3月までの各月を前半（1～15日）と後半（16～末日）に分け、採捕時期を1月後半から4月までの6区分として取りまとめた。なお、各時期の実際の採捕年数は12～24年となっている。

全域における24年間の採捕量の時期別の経年変化を図6に示した。1月後半（16年）の採捕量は

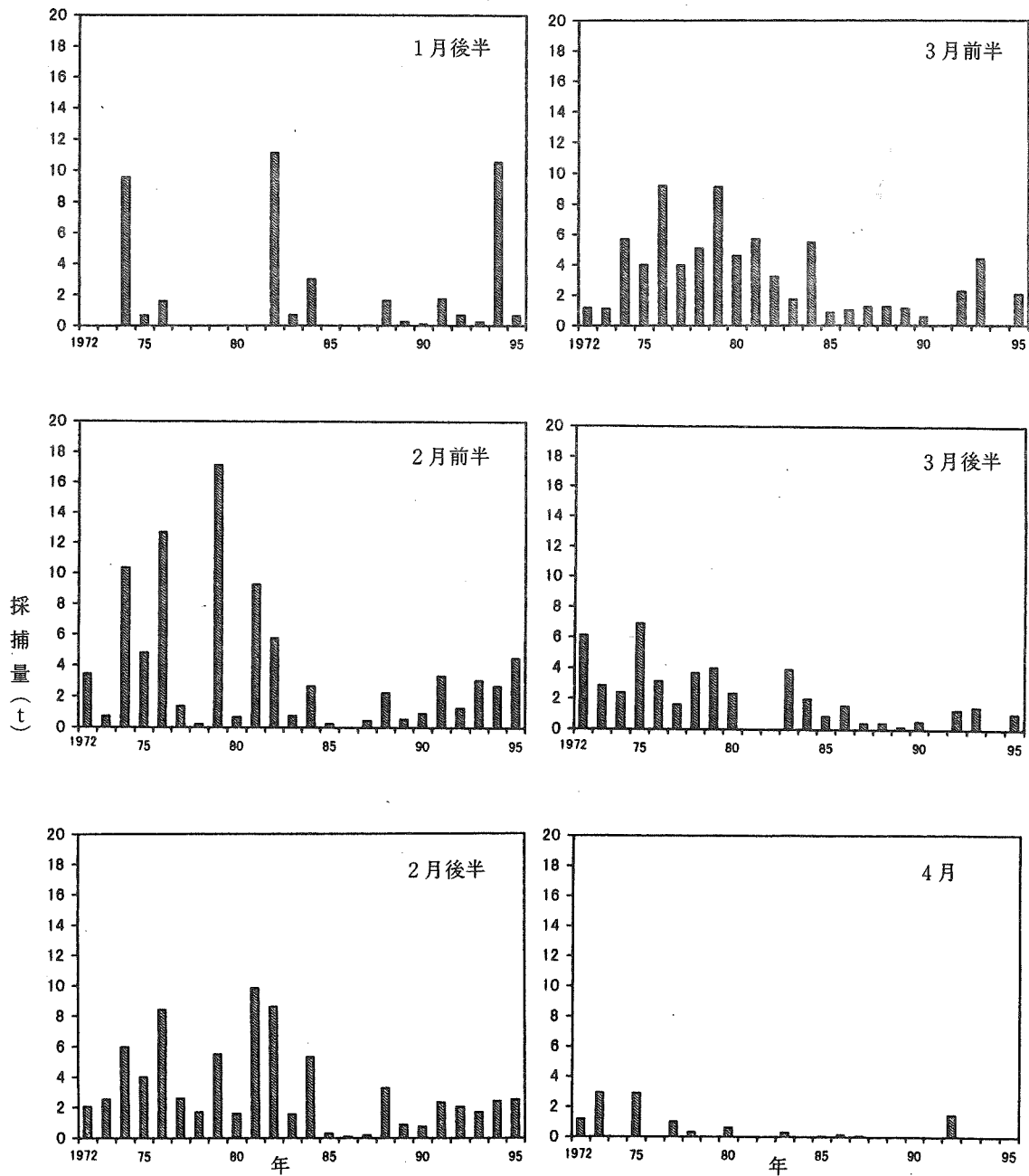


図6 全域における時期別採捕量の経年変化

0～11 tの範囲で、10 t前後が散発的に3年あるが全体に3 t未満となっている。2月前半（24年）、2月後半（24年）および3月前半（22年）の範囲は順に、概ね1 t未満～17 t、1 t未満～10 t、1

t未満～9 tであり、いずれも1984年までは5 t以上が数年ずつあるが1985年以降はすべて5 t未満となっている。3月後半(20年)は1 t未満～7 tの範囲で、1984年まではほぼ5 t未満であり1985年以降はすべて2 t未満となっている。4月(12年)は0～3 tの範囲で、全体に2 t未満が多くなっている。各時期の平均値をみると、1月後半から順に、2.7 t, 3.7 t, 3.2 t, 3.4 t, 2.3 t, 0.9 tであり、2月前半から3月前半までが3 t台、1月後半と3月後半が2 t台、4月が1 t未満となっている。

採捕量を2 t未満から5 t以上の3つの区分とした頻度をみると、1月後半と4月は2 t未満が著しく多く、また2月前半から3月後半までは5 t未満までが多い状況となっている(図7)。

次に、紀北と田辺湾について採捕量の範囲と平均値を図8に示した。採捕量の範囲は全体的には、紀北では0～7 t、田辺湾では0～10 tで、ともに2月前半が最大となっている。平均値をみると全体的には、紀北では0.6～1.8 tの範囲で2月前半と3月前半が、また田辺湾では0.1～1.9 tの範囲で2月の前・後半がともに比較的多くなっている。なお、平均値は両者間では、1月後半から2月後半までは田辺湾、3月前半から4月までは紀北が多くなっている。

以上、採捕時期を1月後半から4月まで6つに分けて採捕状況を取りまとめたところ、採捕の主な時期は2月前半から3月前半までとなっている結果が得られた。

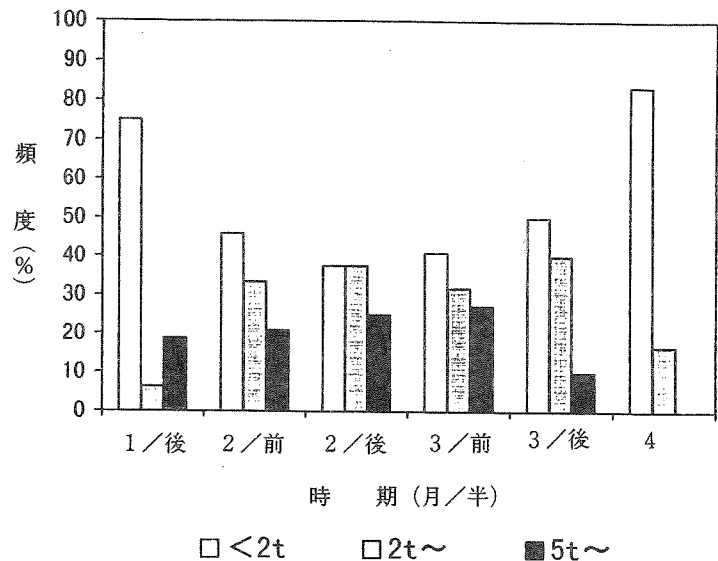


図7 全域における時期別採捕量の頻度

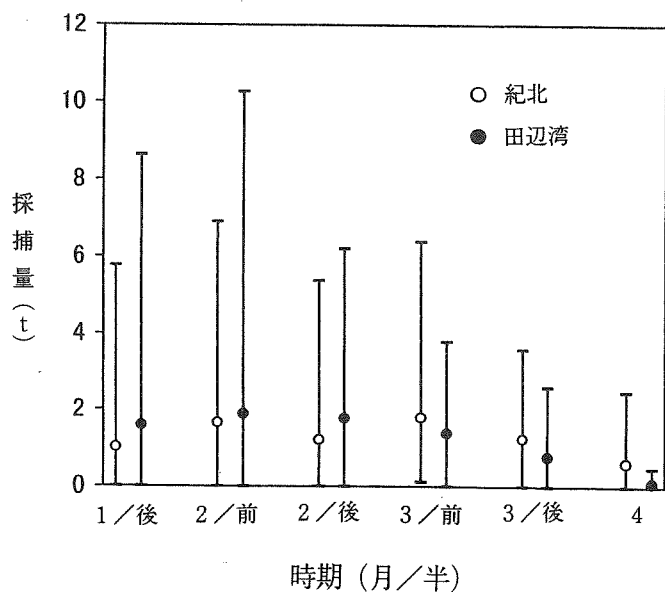


図8 紀北と田辺湾海域における時期別採捕量の範囲と平均値

## 文 献

- 1) 藤井久之, 見奈美輝彦: 和歌山県における海産稚アユの採捕状況 - I. 平成6年度和歌山県内水面漁業センター事業報告, 20, 36-41 (1996).